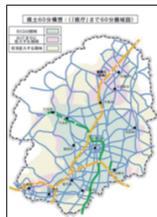


IV とちぎの道路・交通ビジョンの変遷

栃木県では、県内各地域と県庁を60分で結ぶなどの道路網の整備を目標に掲げた「県土60分構想」を平成13(2001)年に策定以来、当初の理念を継承しつつ、公共交通と自動車の連携や「人の移動」の重要性、更には災害や新型コロナウイルス感染症等の危機対応力の強化など、時代の潮流を踏まえた視点を加えながら、本県の道路・交通分野における施策の方向性を示す基本計画として充実を図ってきました。

平成13(2001)年「県土60分構想」



平成13年以前から同様の考え方はありましたが「構想」として取りまとめました。次の3点を目標に掲げ、体系的な道路網の整備に取り組みました。

- ①県内各地域と宇都宮市(県庁)とを60分以内で連絡する
- ②高速道路インターチェンジに30分以内で連絡する
- ③県内主要都市を60分以内で連絡する

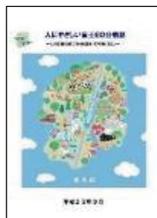
平成18(2006)年「新たな県土60分構想」



「県土60分構想」の充実に加え、公共交通と自動車の「連携」と「役割分担」による総合的な交通体系の構築が必要であることから、次を目標に掲げ、「誰もが、どこから、どこへでも、安全・スムーズに移動できる交通網の整備」に取り組みました。

- ①道路整備の推進
- ②公共交通の充実・連携

平成23(2011)年「人にやさしい県土60分構想」



少子高齢化・グローバル化・環境問題などの社会情勢の変化へ対応するため「人の移動」の重要性を構想に含め、「新たな県土60分構想」を継承するとともに、次の3つの基本的考え方に基づき「人の移動の安全性・快適性・定時性の向上」を目指しました。

- ①暮らしの「安全安心」を支える道路交通網の整備
- ②とちぎの「活力成長」を生み出す交通網の整備
- ③とちぎの「人や環境」にやさしい交通網の整備

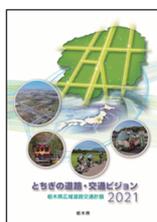
平成28(2016)年「とちぎの道路・交通ビジョン」～県土60分構想2016～



前構想に「地域内交通ネットワーク」、「県内拠点間交通ネットワーク」及び「全国・海外へ広がる交通ネットワーク」の連携性の向上を加え、「暮らしや産業・観光を支え、災害に強い」交通ネットワークの構築に取り組み、「すべての人にとって安全・安心・快適な移動手段の確保」を目指しました。

- ①「暮らしを支える交通ネットワーク」
- ②「産業・観光を支える交通ネットワーク」
- ③「災害に強い交通ネットワーク」

令和3(2021)年「とちぎの道路・交通ビジョン2021」栃木県広域道路交通計画



自然災害や新型コロナウイルス感染症等への危機対応力の強化等を踏まえ、次の3つの交通ネットワークの充実・強化と連携の促進に取り組み、「誰もが、いつでも・どこでも、安全・安心・快適に移動できる持続可能な社会」を目指しました。

- ①全国・海外と連携する交通ネットワークの充実・強化
- ②県内各拠点を結ぶ交通ネットワークの充実・強化
- ③地域を支える交通ネットワークの充実・強化